キャラクター名
シオン

プレイヤー名

シンドローム	ブラム＝ストーカー ブラム＝ストーカー	ワークス	FHセルリーダーD	カヴァー	喫茶店主、バー店主
オプショナル		年齢	35歳	性別	女性
覚醒	素体	衝動	破壊	初期侵食率	35 %
出自	結社の一員	経験	絶望	邂逅	理想の現実

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2		0			2
感覚	4	1	0			5
精神	2		0			2
社会	0		1			1

HP	26
行動値	12
(非装備時)	12
戦闘移動	17
全力移動	34

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	1		ＲＣ			交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報： FH	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
scarlet bullet	射撃	9r+1		+9		1+2+4,侵蝕値+4,2HP消費
in full bloom	射撃	9r+1	80↑	+21		1+2+4+7,侵蝕値+8,7HP消費
secret garden	射撃	9r+1	80↑	+15		1+2+4+5,侵蝕値+8,2HP消費,1シナリオ3回,12だけ回復
冥府の女王 (Queen Persephone)	射撃	9r+1	120↑	+27+4D		1+2+4+5+6+7,侵蝕値+12+4D10,2HP消費,1シナリオ1回

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
FHG666					攻撃力+6（計算済）,射程20m,射撃判定ダイス+1（計算済）
					（同エンゲージ不可）

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
応急手当キット	
コネ：裏社会	
応急手当キット	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
煉	P 幸福感	N 悔悟		
四片リン	P 好意	N 不安		
アイテム（FHG666）	P	N		
ミドリ・ツルハ	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	4	残り財産P：	

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
紅の王	2	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果： 自分の行動によるHP消費-LV、侵蝕率基礎値+3								
赫き弾	1	2	メジャー	武器	-	<射撃>	-	
効果： 攻撃力+LV+2,2HP消費								
災いの紅	2	2	メジャー	武器	-	<射撃>	-	
効果： ガード値-LV×3,2HP消費								
滅びの一矢	2	2	メジャー	武器	-	<射撃>	-	
効果： ダイス+LV+1個,2HP消費								
生命吸収	2	4	メジャー	-	単体	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ	80↑	
効果： 攻撃,ダメージ+LV×3,1シナリオ3回								
ヘルズブラッド	2	4D10	オート	至近	自身	自動	120↑	
効果： ダメージ+【LV×2】D,1シナリオ1回								
ブラッドバーン	3	4	メジャー	-	-	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ	80↑	
効果： 攻撃力+LV×4,5点HP								
コンセントレイト	2							
効果： クリティカル値-LV個								
滅びの遺伝子	2	6	オート	視界	単体	自動	-	
効果： LV×10点のHPダメージ,1シナリオ1回								
かぐわしき鮮血	1	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果： 血の匂いで人を見分ける、探す								
効果：								
効果：								
効果：								

夫の名前:煉(レン)、レンと呼んでいる。
名前の由来は、棟(おうち)色=淡く青みがかった紫色。
幼少期から同じ研究所のサンプルとして共同生活を行なっていたが、ある日、シオンの実父が彼女のことをどこまでも「実験体」として愛することに耐えきれず、外の世界で共に生きることを提案する。
差し出された手に、「実験体」としてであっても本当の愛をくれた父を裏切ることへの後ろめたさを感じながら、縋り付くように手を伸ばす。
手は自分のそれよりも大きくて、骨張っていて、少なくない傷が彼のこれまでの苦労を語っていた。
その手に包まれた瞬間、心の底から安心したことを憶えている。数十年経った今も、きっとこれからも。

外の世界へ飛び出した2人は、慣れないながらも同じく行き場のないオーヴァード達と支え合いながら生きていた。彼等との絆は深まり、いつしか小規模FHセル「廻天」と呼ばれるようになった頃、彼女の体内に新たな命が芽生える。
きっと、これ以上ない幸せな日々だった。いつまでもこの安寧な日々が続くのだと勘違いしてしまう程に。
…私は、オーヴァードだったのに。

「64番！！！！」
二度と聞くことはないと思っていたかつての自分を表す数字、捕らえようとする無数の手。
自分と腹の中の子を守るために散っていく仲間たちの命、苦痛の声、悔しそうな表情。
「希望をつないで、お願いよ？」そう言って私を送り出した彼女は、数秒後に砂になって消えた。
ただ走るしかなかった。彼等の狙いは、私ではなく、私の息子だ。だからこそ、このタイミングで現れた。
死ねない。この子を産まなくては。この子に命をつながなくては。その一心でなりふり構わず走る。
走って、走って、走って。
永遠にも感じた時間がようやく終わりを迎えたと、そう思った瞬間。
「伏せろ！！！」これまで一緒に戦い続けたパートナーの声に反射的に従ってしまった。その直後、眼前に広がる朱。誰よりも愛おしい彼の血が、止めどなく溢